福井工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	人間と社会		
科目基礎情報							
科目番号	0018		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	生産システム工学専攻		対象学年	専1			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	藤井透他訳『はたらく子どもの世界 産業革命期イギリスを生きる』晃洋書房						
担当教員	廣重 準四郎,川畑 弥生						
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> 人間や社会について考察する多様な視角が存在することを理解し、複数の人間像ないしは社会像の概要を検討・考察することができる。 経済学の基礎概念や経済の歴史を習得し、現代経済の本質について考察することができる。 							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1		人間や社会について考察する多様な視角が存在することを理解し、複数の人間像ないしは社会像の概要を検討・考察することが十分にできる。	人間や社会について考察する多様な視角が存在することを理解し、複数の人間像ないしは社会像の概要を検討・考察することがある程度できる。	人間や社会について考察する多様な視角が存在することを理解し、複数の人間像ないしは社会像の概要を検討・考察することができない。			
評価項目2		経済学の基礎概念や経済の歴史を習得し、現代経済の本質について考察することが十分にできる。	経済学の基礎概念や経済の歴史を習得し、現代経済の本質について考察することがある程度できる。	経済学の基礎概念や経済の歴史を習得し、現代経済の本質について考察することができない。			
学科の到達目標項目との関係							
JABEE JA1 JABEE JA2							
教育方法等							
概要	多様で複雑化した現代社会において活躍する技術者にとって必要な人間及び社会に対する問題意識を形成するために、経済学の基礎概念をおさえながら、経済学の諸理論にも目配りしつつ、資本主義経済の本質を理解した上で、資本主義の確立過程を児童労働の側面からとらえる。それをふまえて戦後日本経済のあゆみを跡づけ、現代社会の諸問題への経済学的アプローチも試みる。						
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> この科目は、学修単位B（30時間の授業で1単位）の科目であり、授業外学習として予習や復習などの課題を課す。 講義担当者が授業ごとに準備したレジュメに沿って学習を行う。 						
注意点	<ul style="list-style-type: none"> 初回の授業の際に伝える「受講に際しての注意事項」を厳守すること。 成績評価は後期末試験の得点のみで行い、100点満点の60点以上を合格とする。 						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング ☐ ICT 利用 ☐ 遠隔授業対応 ☐ 実務経験のある教員による授業							
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	イントロダクション	授業の進め方、到達目標、成績評価法などについて理解できる。			
		2週	経済学の基礎概念(1)	富、生産力、生産関係、生産様式について理解できる。			
		3週	経済学の基礎概念(2)	商品、貨幣、市場について理解できる。			
		4週	経済学の諸理論(1)	黎明期から古典派までの議論の要点を理解できる。			
		5週	経済学の諸理論(2)	新古典派以降の近代経済学およびマルクス経済学の基本的な議論を理解できる。			
		6週	資本主義経済の機構	資本主義経済の本質について理解できる。			
		7週	資本主義と児童労働(1)	児童労働の規模と性格について理解できる。			
		8週	資本主義と児童労働(2)	工業化の影響について理解できる。			
	4thQ	9週	資本主義と児童労働(3)	国家介入と慈善の影響について理解できる。			
		10週	資本主義と児童労働(4)	児童の仕事と福祉について理解できる。			
		11週	日本経済のあゆみ(1)	戦前日本経済の特徴および戦後復興について理解できる。			
		12週	日本経済のあゆみ(2)	高度成長期から安定成長期までについて理解できる。			
		13週	日本経済のあゆみ(3)	バブル景気とその崩壊について理解できる。			
		14週	現代社会の諸問題(1)	日本の女性労働問題について理解できる。			
		15週	現代社会の諸問題(2)	資源問題・環境問題の本質について理解できる。			
		16週	後期末試験				
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	小テスト	ポートフォリオ	レポート	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0